

評価項目		ルーブリックによるレベル評価						
記号	名称	0	0.5	1	1.5	2	2.5	3
a	基礎学力 (外国語)	外国語の能力が身につけていない。	0と1の間	外国語の能力が概ね身につけており、母国語者と日常的なやりとりができる。	1と2の間	外国語の能力が身に付いており、母国語者に自分の意見を述べるができる。	2と3の間	外国語の能力が優れており、国際学会での発表・質疑応答に対応できる。
b	教養・倫理	工学・建築学分野において求められる教養と倫理を身に付けていない。	0と1の間	工学・建築分野と社会との係り合い、社会的な責任について概ね理解している。	1と2の間	工学・建築分野と社会との係り合い、社会的な責任について理解しており、これらを考慮して物事を考えることができる。	2と3の間	工学・建築分野と社会との係り合い、社会的な責任について深く理解しており、様々な視点から物事を深く考えて、適切で責任ある判断と行動ができる。
c	基礎学力	工学・建築学の知識や技術を学ぶのに必要な基礎学力を身に付けていない。	0と1の間	工学・建築学の知識や技術を学ぶのに必要な基礎学力を概ね身に付けている。	1と2の間	工学・建築学の知識や技術を学ぶのに必要な基礎学力を身に付けている。	2と3の間	工学・建築学の知識や技術を学ぶのに必要な基礎学力を十分に身に付けており、自分で新たな知識を獲得できる。
d	専門学力・知識	計画・環境・構造分野の専門知識が身に付いていない	0と1の間	計画・環境・構造分野の専門知識を概ね理解している。	1と2の間	計画・環境・構造分野の専門知識を理解し、活用できる。	2と3の間	計画・環境・構造分野の専門知識の理解が優れ、課題の設定や複数の知識を組み合わせた応用もできる。
e	実践力・プレゼン力	実務の問題の発見・解決する能力、構想や成果などを表現するプレゼンテーション能力は身に付いていない	0と1の間	実務の問題の発見・解決する能力、構想や成果などを表現するプレゼンテーション能力は概ね身に付いている	1と2の間	実務の問題を発見し、専門知識と教養を活用して解決方法を立案できる。また、構想や成果などを表現するプレゼンテーション能力が身に付いている。	2と3の間	実務の問題を発見し、専門知識と教養を活用して解決方法を立案し、遂行もできる。また、構想や成果などを効果的な表現を用いてプレゼンテーションする能力が身に付いている。
f	地域性・国際性	地域や国際社会の課題・動向などを理解できていない	0と1の間	地域や国際社会の課題・動向などを概ね理解している	1と2の間	地域や国際社会の課題・動向などを理解しており、これらを考慮して適切に行動することができる。	2と3の間	地域や国際社会の課題・動向など理解が優れており、国際的にも活躍できる能力を有している。

評価項目		ルーブリックによるレベル評価						
記号	名称	0	0.5	1	1.5	2	2.5	3
a	基礎学力 (外国語)	外国語の能力が身につけていない。	0と1の間	外国語の能力が概ね身につけており、母国語者と日常的なやりとりができる。	1と2の間	外国語の能力が身に付いており、母国語者に自分の意見を述べるができる。	2と3の間	外国語の能力が優れており、国際学会での発表・質疑応答に対応できる。
b	教養・倫理	工学・建築学分野において求められる教養と倫理を身に付けていない。	0と1の間	工学・建築分野と社会との係り合い、社会的な責任について概ね理解している。	1と2の間	工学・建築分野と社会との係り合い、社会的な責任について理解しており、これらを考慮して物事を考えることができる。	2と3の間	工学・建築分野と社会との係り合い、社会的な責任について深く理解しており、様々の視点から物事を深く考えて、適切で責任ある判断と行動ができる。
c	基礎学力	工学・建築学の知識や技術を学ぶのに必要な基礎学力を身に付けていない。	0と1の間	工学・建築学の知識や技術を学ぶのに必要な基礎学力を概ね身に付けている。	1と2の間	工学・建築学の知識や技術を学ぶのに必要な基礎学力を身に付けている。	2と3の間	工学・建築学の知識や技術を学ぶのに必要な基礎学力を十分に身に付けており、自分で新たな知識を獲得できる。
d	専門学力・知識	計画・環境・構造分野の専門知識が身に付いていない	0と1の間	計画・環境・構造分野の専門知識を概ね理解している。	1と2の間	計画・環境・構造分野の専門知識を理解し、活用できる。	2と3の間	計画・環境・構造分野の専門知識の理解が優れ、課題の設定や複数の知識を組み合わせた応用もできる。
e	実践力・プレゼン力	実務の問題の発見・解決する能力、構想や成果などを表現するプレゼンテーション能力は身に付いていない	0と1の間	実務の問題の発見・解決する能力、構想や成果などを表現するプレゼンテーション能力は概ね身に付いている	1と2の間	実務の問題を発見し、専門知識と教養を活用して解決方法を立案できる。また、構想や成果などを表現するプレゼンテーション能力が身に付いている。	2と3の間	実務の問題を発見し、専門知識と教養を活用して解決方法を立案し、遂行もできる。また、構想や成果などを効果的な表現を用いてプレゼンテーションする能力が身に付いている。
f	地域性・国際性	地域や国際社会の課題・動向などを理解できていない	0と1の間	地域や国際社会の課題・動向などを概ね理解している	1と2の間	地域や国際社会の課題・動向などを理解しており、これらを考慮して適切に行動することができる。	2と3の間	地域や国際社会の課題・動向など理解が優れており、国際的にも活躍できる能力を有している。

評価項目		ルーブリックによるレベル評価						
記号	名称	0	0.5	1	1.5	2	2.5	3
a	専門分野の基礎知識	授業レベルで専門分野の基礎知識を有している	0と1の間	授業で学んだ内容を基に、演習問題を解くことができる	1と2の間	授業で学んだ内容を基に、異なる分野の関連性を理解できる	2と3の間	授業で学んだ内容を基に、異なる分野にまたがる演習問題を解くことができる
b	専門分野の応用知識	授業レベルで専門分野の知識を活用できる	0と1の間	専門分野の最新の動向を理解できる	1と2の間	専門分野の最新の知識を活用できる	2と3の間	専門分野の動向をディスカッションできる
c	自然科学の基礎知識	高校卒業レベルの物理・化学等の知識を有している	0と1の間	大学1，2年生程度の自然科学の知識を有している	1と2の間	異なる専門分野の動向を理解できる能力を有する	2と3の間	異なる専門分野の専門家とディスカッションができる
d	教養	高校卒業レベルの人文科学分野の知識を有している	0と1の間	大学1，2年生程度の人文科学分野の知識を有している	1と2の間	人文科学分野の動向を理解できる能力を有する	2と3の間	人文科学分野について自分の意見を持って他者とディスカッションができる
e	学習意欲	教員の指示があれば予習の上、授業に臨むことができ、復習することができる	0と1の間	教員の指示なしに、授業の予習、復習ができる	1と2の間	授業の予習、復習ができ、その際に分からないことがあれば、積極的に調べることができる	2と3の間	授業の予習、復習ができ、その際に分からないことがあれば、積極的に調べることができる。また、授業以外の周辺の分野にまで興味を持ち、積極的に調べるすることができる
f	コンピテンシー	指示があれば集団の中で行動することができる	0と1の間	集団の目的達成のために、ある程度、自分から率先して行動できる	1と2の間	集団の中で自分の立場を理解し、集団および周囲とある程度コミュニケーションを取りながら、問題に取り組むことができる	2と3の間	集団の中で自分の立場をよく理解し、集団および周囲と十分なコミュニケーションを取りながら、問題に取り組むことができる
g	国際性	相手に自分の感情を体の動き等を使って伝えることができる	0と1の間	準備した上であれば、英語で自分の意見や感情を伝えることができる	1と2の間	英語で自分の意見や感情を伝えることができ、相手の話をある程度理解できる	2と3の間	英語で自分の意見や感情を伝えることができ、相手の話を理解して、相手の意見にも適切に自分の見解を述べることができる
h	問題解決能力	指示があれば、問題解決のために行動できる	0と1の間	仮説を立て、問題に取り組むことができ、仮説の正誤を判断できる	1と2の間	仮説を立て、計画に基づいて問題に取り組むことができ、仮説の正誤を判断する能力がある。また、短期間ではあるがPDCAサイクルで問題解決に臨むことができる	2と3の間	仮説を立て、計画に基づいて問題に取り組むことができ、仮説の正誤を客観的な事実をもとに判断できる。また、根気強く継続的に問題解決に向けて努力することができ、積極的にPDCAサイクルで問題解決に臨むことができる

評価項目		ルーブリックによるレベル評価						
記号	名称	0	0.5	1	1.5	2	2.5	3
a	国際性・コミュニケーション力	国際的に個人やグループと英語(外国語)を用いてコミュニケーションをとる能力が不十分である	0と1の間	国際的に個人やグループと英語(外国語)を用い、基本的な情報の提供、受け取りができる	1と2の間	国際的に個人やグループと英語(外国語)を用い、問題解決に向けた基本的な意見交換ができる	2と3の間	国際的に個人やグループと英語(外国語)を用い、相手を理解して問題解決に向けた意思疎通ができる
b	基礎学力	基礎学力の習得が不十分である	0と1の間	基礎学力の入門的な部分を習得している	1と2の間	基礎学力を概ね習得している	2と3の間	基礎学力を総合的に良く習得している
c	教養・倫理観	技術者に必要な教養・倫理観の身につけ方が不十分である	0と1の間	技術者に必要な教養・倫理観の基本的な部分を身につけている	1と2の間	技術者に必要な教養・倫理観を概ね身につけている	2と3の間	技術者に必要な教養・倫理観を良く身につけている
d	専門学力(エネルギー・制御)	必要な知識・技術の習得が不十分である	0と1の間	必要な知識・技術の基本的な部分を習得している	1と2の間	必要な知識・技術を概ね習得しており、問題発見・解決に用いることができる	2と3の間	必要な知識・技術を良く習得しており、他の分野との関連を含めて問題発見・解決に用いることができる
e	専門学力(通信・情報)	必要な知識・技術の習得が不十分である	0と1の間	必要な知識・技術の基本的な部分を習得している	1と2の間	必要な知識・技術を概ね習得しており、問題発見・解決に用いることができる	2と3の間	必要な知識・技術を良く習得しており、他の分野との関連を含めて問題発見・解決に用いることができる
f	専門学力(材料・エレクトロニクス)	必要な知識・技術の習得が不十分である	0と1の間	必要な知識・技術の基本的な部分を習得している	1と2の間	必要な知識・技術を概ね習得しており、問題発見・解決に用いることができる	2と3の間	必要な知識・技術を良く習得しており、他の分野との関連を含めて問題発見・解決に用いることができる
g	問題発見・解決能力	問題発見とその解決に向けた状況把握、因果関係の理解が不十分である	0と1の間	状況や因果関係を大まかに理解でき、問題をある程度明確に示すことができる。一般的な解決策を示すことができる	1と2の間	状況や因果関係を理解でき、問題を明確に示すことができる。納得性のある解決策を示し、これを実行することができる	2と3の間	状況や因果関係を理解でき、これまでに無い価値ある問題を示すことができる。独自ながら納得性・説得性のある解決策を示すことができ、計画的にこれを実行することができる

評価項目		ルーブリックによるレベル評価						
記号	名称	0	0.5	1	1.5	2	2.5	3
a	自然科学の基礎知識（微分積分、線形代数、物理学）	自然科学の基礎知識を理解できていない	0と1の間	自然科学の基礎知識を概ね理解している	1と2の間	自然科学の基礎知識を十分理解している	2と3の間	自然科学の基礎知識をもとに異なる専門分野の動向を理解できる
b	専門分野の基礎知識（専門基礎科目、専門必修科目）	専門分野の基礎知識を理解できていない	0と1の間	専門分野の基礎知識を概ね理解している	1と2の間	専門分野の基礎知識を十分理解している	2と3の間	専門分野の基礎知識が実際の情報工学への応用にどのように関連しているかを理解している
c	専門分野の応用知識（選択必修科目、実験、演習科目、卒業研究）	専門分野の応用知識を理解できていない	0と1の間	専門分野の応用知識を概ね理解している	1と2の間	専門分野の応用知識を十分理解している	2と3の間	専門分野の応用知識を活用して、情報工学分野の動向を議論できる
d	学習意欲・俯瞰力（専門科目）	教員の指示がなければ授業の予習、復習ができない	0と1の間	教員の指示なしに授業の予習、復習ができる	1と2の間	授業の予習、復習ができ、その際に分からないことがあれば、積極的に調べることができる	2と3の間	当該授業科目以外の周辺分野にまで興味を持ち、積極的かつ横断的にものごとを調べることができる
e	コンピテンシー（工学基礎実験、情報工学実験、卒業研究）	集団の目的達成のために、自分から率先して行動できない	0と1の間	集団の目的達成のために、ある程度、自分から率先して行動できる	1と2の間	集団の目的達成のために、積極的に、自分から率先して行動できる	2と3の間	集団の中で自分の立場を理解し、コミュニケーションを十分に取しながら、積極的に問題に取り組むことができる
f	国際性（英語）	英語で自分の意見や感情を伝えることができない	0と1の間	準備をすれば、英語で自分の意見や感情を伝えることができる	1と2の間	準備をしなくても、英語で自分の意見や感情を概ね伝えることができる。相手の話を概ね理解できる	2と3の間	英語で自分の意見や感情を十分に伝えることができる。相手の話を十分に理解できる。
g	問題解決能力（卒業研究）	仮説を立てて、問題に取り組むことができない	0と1の間	仮説を立てて、問題に取り組むことができ、仮説の真偽を判断できる	1と2の間	仮説を立てて、計画的に問題に取り組み、仮説の真偽を概ね判断できる。PDCAサイクルで問題解決に臨むことができる	2と3の間	自ら興味あるテーマを見だし、関連する学術論文の内容を理解できる。仮説を立てて、計画的に問題に取り組み、仮説の真偽を客観的な事実に基づいて判断できる。積極的にPDCAサイクルで問題解決に臨むことができる
h	一般教養	高校卒業レベルの人文科学分野の知識を有している	0と1の間	大学1、2年生程度の人文科学分野の知識を有している	1と2の間	人文科学分野の動向を理解できる能力を有する	2と3の間	人文科学分野について自分の意見を持って他者とディスカッションができる

評価項目		ルーブリックによるレベル評価						
記号	名称	0	0.5	1	1.5	2	2.5	3
a	コミュニケーション力	不十分	0と1の間	最低限の能力を身に付けている	1と2の間	多少の不備はみられるものの、身に付けている	2と3の間	十分に付けている
b	専門基礎力	不十分	0と1の間	最低限の能力を身に付けている	1と2の間	多少の不備はみられるものの、身に付けている	2と3の間	十分に付けている
c	専門応用力	不十分	0と1の間	最低限の能力を身に付けている	1と2の間	多少の不備はみられるものの、身に付けている	2と3の間	十分に付けている
d	基幹基礎力	不十分	0と1の間	最低限の能力を身に付けている	1と2の間	多少の不備はみられるものの、身に付けている	2と3の間	十分に付けている
e	一般教養	不十分	0と1の間	最低限の知識を身に付けている	1と2の間	多少の不備はみられるものの、身に付けている	2と3の間	十分に付けている
f	エンジニアリングセンス	不十分	0と1の間	最低限の能力を身に付けている	1と2の間	多少の不備はみられるものの、身に付けている	2と3の間	十分に付けている